

ある人、弓射ることを習ふに〔第九十二段〕

問一 歴史的仮名遣いを○でかこみ、現代仮名遣いに直しなさい。

問二 原文を現代語訳しなさい。

〔原文〕

ある人、弓射ることを習ふに、

諸矢をたばさみて的に向かふ。

師のいはく、「初心の人、二つの

矢を持つことなかれ。後の矢を

頼みて、初めの矢になほざりの

心あり。毎度ただ得失なく、こ

の一矢に定むべしと思へ。」と

言ふ。

わづかに二つの矢、師の前に

て、一つをおろかにせんと思は

んや。懈怠の心、自ら知らずと

いへども、師これを知る。この

戒め、万事にわたるべし。

〔現代語訳〕

雪のおもしろう降りたりし朝【第三十一段】

問一 歴史的仮名遣いを○でかこみ、現代仮名遣いに直しなさい。

問二 原文を現代語訳しなさい。

〔原文〕

雪のおもしろう降りたりし朝、

人のがり言ふべきことありて、文

をやるとて、雪のこと何とも言は

ざりし返りごとに、『この雪、い

かが見る。』と、一筆のたまはせぬ

ほどの、ひがひがしからん人の仰

せらるること、聞き入るべきかは。

返すがへす口惜しき御心なり。」と

言ひたりしこそ、をかしかりしか。

今は亡き人なれば、かばかりの

ことも忘れがたし。

〔現代語訳〕